

こんにちは。さいとう石材です。

# 石だより

10・11  
月号

外  
で過ごしやすい時期になり、行楽シーズンの到来です。石が主役の観光名所のひとつに長崎の眼鏡橋があります。

一六三四年（寛永11年）、中国出身の僧侶・黙子如定（もくすによじょう）が、川が氾濫し、木造の橋がたびたび流失するのを見かねて造らせたといわれています。黒みを帯びた安山



岩が整然と組み立てられている様は美しく、400年近く前の建造物であることに驚かされます。この眼鏡橋も水害により何度か破損したもの、崩壊することはありませんでした。修復がされながら今も現役の橋として使用されていることが、石橋の頑丈さを物語っています。

一方で、現在は増水時に水を逃すための地下バイパス水路を設けるといった防災対策もしっかりなされているそうです。

## 「石橋を叩いて渡る」 に越したことなし

「石橋を叩いて渡る」は、物事に慎重な様子を例えたことわざですが、石橋に対しての安心感があってこそ生まれた表現でしょう。ときには慎重すぎる人に対して皮肉を込めて使われることもあります。眼鏡橋が防災対策を設けたように、



裏面「写真に一言」を  
ぜひお読みください

株式会社 齋藤石材



本社 Tel 0229-67-3036  
加美郡加美町字中原 25-14  
メール: isi@isi5.com

古川店 Tel 0229-28-3744  
大崎市古川休塚目見田 1-3

ホームページへは、「齋藤石材 宮城」で検索 または、右上QRコードでアクセス↑

何事も油断は禁物。  
備えは万全に。



とくに人命がかかわるケースでは慎重すぎるくらいがよいといえそうです。  
石屋としても、用心に用心を重ねながら工事を進めて、しっかりとしたお墓を建てていきたいと思っています。



# 石の神様 訪問記 ④ 誕生石

住吉大社 前編  
(大阪市住吉区)

大阪にある住吉大社は、全国約二三〇〇社ある住吉神社の総本山。近くに路面電車が走る下町情緒を残す地域にあり、「すみよっさん」と呼ばれて親しまれています。

3万坪という広さをもつ境内には、「住吉造」という特殊な様式でつくられた4棟の本殿のほか、27の摂社や末社、名所旧跡も多数。授与品もバラエティに富み、テーマパークのような(?)楽しさがあります。石にまつわる場所も何力所があり、前編・後編に分けてご紹介します。

鳥居をくぐり、本殿に通じる反橋を渡って左手に少し歩くと、「誕生石」という表示が現れます。しめ縄のついた大木の下、石灯籠と柵に囲まれて鎮座する大きな石には、神々しさが漂っています。源頼朝の寵愛を受けた丹後局(たんのこのつぼね)がここで大きな石を抱いて男児を出産したと伝えられており、安産祈願を受けた後、この小石を拾って安産のお守りとするのが習わしとか。看板には緊迫感のある歴史物語が綴られており、御利益がありそう!と思わせます。



柵の中に鎮座する「誕生石」。



丸に十字紋は島津家の家紋。



石の由来を伝える看板。生まれた男児は、薩摩藩「島津氏」の始祖・島津忠久公。



本殿に続く反橋。

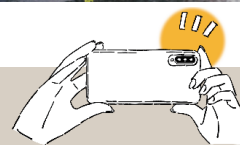
## お参りの花

夏から秋にかけて花を咲かせるケイトウ。ビロードのような質感と深みのある色合いが秋らしさを感じさせます。「鶏頭」と書くとおり、その名はニワトリのとさかに似ていることに由来。日持ちもよく仏花にも使われます。品種改良により色と形のバリエーションは豊富で、今回選んだのは久留米系と呼ばれる球状のもの。丸い花形のスプレーマム(菊)を添え、可愛らしくまとめました。

※スプレーマムは、1本の茎が枝分かれし、多数の花を咲かせる菊のこと。



今月の一押し



## スタッフの「写真に一言」

稲刈りも終わり、秋の味覚として新米で栗ご飯やマツタケご飯の美味しい季節です。

他にもお野菜や果物も食欲がとまりませんね!

最近ごちそうになったえびすかぼちゃのアイスクリームにイチジク甘露煮にクリームチーズとともに斬新なお味です。

定休日

加美町本社 : 第1・3土曜・日・祝日

大崎市古川店 : 毎週木曜日・その他不定休あり

10月10日(月)・・・スポーツの日

10月31日(月)・・・ハロウィン

11月3日(木)・・・文化の日

11月7日(月)・・・立冬

11月15日(火)・・・七五三

11月23日(水)・・・勤労感謝の日

今月の予定

石だより



(株)齋藤石材 齋藤久美子

さいとう石材 宮城県加美郡加美町字中原 25-14 TEL:0229-67-3036